

今出川図書館

(同志社大学)



現在の今出川図書館は1973年12月1日に開館しました。地下2階、地上3階、塔屋1階の鉄筋コンクリート造で、1975年に第16回建築業協会賞を受けています。

現図書館が建設されるに至った契機は、1960年代初頭にまで遡ります。当時、学生数が急増する中で、質・量共に学生のニーズに見合った図書館の整備が課題となりました。しかし、建物の完全撤去や新図書館構想について妥協点が見いだされないうちに、時は過ぎ、1969年には学園紛争の波に襲われ着工は大幅に遅れました。学園紛争が落ち着いた1972年11月、ついに建設は開始され、約1年の工事期間ののち、開館を迎えました。

現在、今出川図書館の蔵書数は約83万冊。1階にはメインカウンター、開架図書、参考図書、雑誌、新聞コーナー等、2階には、閲覧室、グループ学習室、事務室等、3階には書庫と貴重室が配置されています。また、地下1階には書庫、閲覧室、マルチメディア・ライブラリー、グループ学習室、EU情報センター等、地下2階には書庫が配置されています。

竣工以来、半世紀にわたり活用されてきた今出川図書館は、施設・設備の老朽化が進み、耐震化への対応やバリアフリー等ダイバーシティへの対応が充分ではないこと、また、書庫狭隘化等の課題を有しています。そのため、2025年度内の竣工を目標に、新図書館の建設計画が進んでおり、現時点では、2023年秋から2025年度にかけて解体・建設作業が実施される予定です。なお、同志社創立150周年記念事業（大学建設事業）の一つとして「同志社大学2025ALDOSHISA募金」の対象事業にもなっています。多くの方々への支援のもと、半世紀ぶりに今出川図書館は生まれ変わろうとしています。

（参考）河野仁昭『キャンパスの年輪』（同志社大学出版部1985年）

原 正元『新図書館の完成によせて』（『同志社時報』第51号46

頁1974年）



有隣館は、国際高等学校が開校した年の1980年3月15日完工、同年3月15日に献堂式が挙行された建物です。開校年度は帰国生83名、国内一般生66名、合計149名の学びからスタートしました。

鉄筋コンクリート造陸屋根、地上3階建て、普通教室を中心に床延べ面積は、2449・92㎡です。64㎡の教室が18室。廊下が特に広くとられています。

校舎北壁面は、全面赤レンガ造り、南壁面は、白色基調としたベランダが各階に設けられ、南からの直射日光が教室に入らないよう工夫されています。中央には階段が設置され道路をはさんで北側にある管理棟へは、2階の渡り廊下でつながっています。

1988年4月に国際中学校を併設した時には、中学生のホームルーム教室として主に使用していました。

2015年4月より国際学院初等部（国際部）卒業生を受け入れるために、新校舎建設と既存建物および多くの施設の改修に伴い、現在は、1階を技術教室・トレーニング室・更衣室等、2階を中学1年生のホームルーム教室と習熟度教室・書道教室、3階を中学2年生のホームルーム教室と理科室として使用しています。

「有隣館」の名称は、当時の総長 上野直藏先生によって名づけられました。